

平成 24 年 7 月 4 日

「福島に生きる」を考えるワークショップ

福島大学人文社会学群経済経営学類 西川ゼミ

本企画のねらい、意図

映画「トテチータ・チキチータ」を上映し、そのあとにワークショップを行うが、この映画は、震災後初めて福島を舞台に製作されたものである。県内の各地でロケを行ったこの映画の製作には白河市の和菓子店の経営者である古川雅裕氏がプロデューサーとして大きくかかわった。古川氏は「震災と原発事故の被害を受けた福島県に光を投げかけたい」という思いでこの映画を作った。実際にこの映画では、避難先にいるなど今までとは異なった環境で暮らす福島県民がエキストラとして多く出演している。古川氏によると、「この映画に出演することでつらい日常を忘れることができた」という声が多く聞かれたそうである。

私たちゼミ生は古川氏からお話を聞いて、この映画には震災後・原発事故後の福島県民の様々な思いがこめられていると感動した。この映画を見ることで、震災から今まで自分はどうやって生きてきたか、そして、これからどうやって生きて行こうと考えているか、そういうことを腹の底から語り合える場をつくれぬか、そして、それが新しい絆を作っていくことになるのではないかと考えて、上映会とワークショップを開催することとした。

今回の企画では、地域に住んでいる方々、仮設住宅に住んでいる方々、学生たちに参加を呼び掛けている。普段の生活では関わる機会の少ない者同士が意見を交換しあえる場を提供し、新たな絆を生み出したいと考えている。

開催概要

開 催 日：7月14日(土)

開 催 場 所：福島大学L3教室(映画上映)、福島大学S棟1階全室(ワークショップ)

日 程：13:00~	入場開始
13:30~13:50	古川雅裕氏の紹介&あいさつ
13:50~14:00	ニュースの一部を放送(映画紹介)
14:00~14:10	休憩

14:10~15:45 映画上映
15:45~16:00 休憩&移動
16:00~17:00 ワークショップ
17:00~ ワークショップ終了、解散

古川雅裕さんの紹介

昭和 36 年生まれの白河市出身

株式会社大黒屋 4 代目社長

映画「トテチータ・チキチータ」プロデューサー

NPO 法人「カルチャーネットワーク」代表

市民団体「白河シネマパラダイス運営会」会長

この映画には、「福島で下を向いている人なんていない。福島の人には誰も諦めていない。心の傷に耐えながら頑張っている。この映画が少しでも福島の希望の光になってくれればいいな」という古川さんの想いが込められている。

映画「トテチータ・チキチータ」

福島上映の他、全国で順次公開されている。

2 月末にはポルトガルの国際映画祭に正式招待され、外国特派員協会での試写もされた。

映画を見て感じたこと

この映画の中で何回も流れる問いかけが、「あなたには守る人がいますか？」である。震災後も一人で暮らす老女が、第二次世界大戦で死に別れたものの今は別々の人間として生まれ変わっている家族三人と震災後の福島で再会するというファンタジーである。いやがおうでも命と向き合わざるを得なかった戦争中と、平和な時期に暮らしているながら震災と原発の事故に遭った福島県民が重ねられている。

震災と原発の事故から「お互いを守り、そして守られることの大切さ」を学んだ福島県民が、たとえ他人であっても前世で繋がっていたのかもしれないのだから、他人同士でも守り合おうということを訴えている映画だと思った。

「守りたい人がいるから生きてるんだ」ということを見る人に強く訴えかけてくるのがラストシーンである。

(トテチータとはドラゴンのことである。「トテチータが天から我々を見守ってくれている」というのが主人公の少女凜の言葉)

(お問い合わせ先)

西川ゼミ 増川大輔

電話：090-8787-9594